浦和大里小学校だより

１１月号　令和５年１１月１日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

垂直比較のすすめ

校 長　　中 野　緑

校庭の木々の葉が、緑から黄色、赤へと刻々と変化していきます。一気に秋が訪れました。

１０月２８日に行われた運動会では、温かな応援をありがとうございました。前日まで安心しきっていた天候が、朝からの雷と雨で時程の急な変更となりましたが、皆様から温かい励ましのお声掛けやお手伝いをいただき、職員一同、本当に元気がでました。急遽一部校内放送で行うこととした開会式では、「一所懸命はかっこいい！」「一所懸命は楽しい！」ということを改めて伝えました。各種目では、保護者・地域の皆様に見守られ、今もつ力を出し切る姿をたくさん見ることができ、嬉しく思いました。

子どもたちの演技を見ながら職員と話をしました。

「〇〇さんがニコニコ笑顔でリズムよく動いていますね。」

「はい。去年はダンスに苦手意識があり自信なさげに参加していましたから嬉しいです。」

「６年生の走りは、やはり迫力がありますね。」

「そうなんです。体の使い方が分かってきて、コーナリングもうまくなりました。」

話しているうちに、わたしは、自分自身が、そのときどきにみせる子どもたちの姿を「水平比較」していることに気が付きました。全体を見渡して一所懸命取り組んでいる児童を見付けては、素敵だな、嬉しいな、と感じ、声をかけているのでした。

一方で、職員の多くが、子どもの姿を「垂直比較」しています。「垂直比較」は経年で見続けている人にしかできません。一人ひとりを昨日、１か月前、１年前などと、経年で見守り、そこで見つけた成長を喜ぶ姿がありました。

子ども時代はあっという間に過ぎ去っていきます。「おぎゃあ」と生まれた子どもが、寝返りをうち、はいはいをし、立って、歩き、少しずつ言葉を話すようになっていく、あの、目に見えてできることが増えていく幼き時期を懐かしく思い出します。

自分の子育てを振り返ると、いつからか、できたことを褒めても反応が悪くなることがありました。「はい、はい・・」とか「どうも・・」とそっけないのです。その寂しさを同僚と分かち合っていた当時、「１０歳前後からは、できたことを褒めるのではなくて、その過程をよく見て、がんばりを認めることを大切にするといい。」と教わりました。

成長するにつれて、子ども自身も「目に見えて」できることに加えて、「目に見えない」心の部分も大切にし始めます。心はなかなか見えにくいものですが、子どもの自律・自立に向けて、じっくりと成長させたいところです。

一人ひとりの子どもを「垂直比較」するとは、努力の過程を認めること。
「何度も繰り返し練習していたものね。諦めずに努力できる力がついてきたんだね。嬉しいよ。」と、心が育つ言葉のシャワーを、子どもたちに浴びせ続けていきましょう。

◆学校ホームページ内において子どもたちの日常を発信しています。「学校生活」をぜひご覧ください。◆